

まもりびと journal

株式会社スナダ石材

〒939-0364

富山県射水市南太閤山9-75

TEL:0766-53-5145



ツテ・コネ・金なしの田舎者が成功するためには？ 実業家・大谷米太郎の軌跡

2020年は東京オリンピックが開催されます。2019年の大河ドラマ「いだてん」は、1964年の東京オリンピックまでの道すじと人間模様が題材でしたが、56年前、オリンピックに向けて建設されたのが「ホテルニューオータニ」です。このホテルの創業者である大谷米太郎は、富山県小矢部市水落の生まれで、生家は大谷博物館として有形文化財に登録されています。

米太郎は、明治14年に小作農の両親のもとに生まれますが、貧乏なため教育も十分に受けられず、農業をしながら丁稚奉公に出て家計を助けていました。父親の死後、家の主として家族を養わなければならないものの、果てしなく続く貧乏生活から抜け出すため、一発勝負をかけて上京します。米太郎、31歳。手にはにぎり飯と20銭だけ。手持ちの金はすぐになくなり、保証人もないため、仕事を探すのもひと苦労します。大きな体と人好きする性格を武器に、なんとか日雇い人夫としてスタート。しかし、このままではその日暮らしから抜けられず、同郷の相撲取りを頼って相撲部屋に向かうことに。地元の相撲大会で活躍した米太郎はスカウトされ、力士として再スタートをきります。

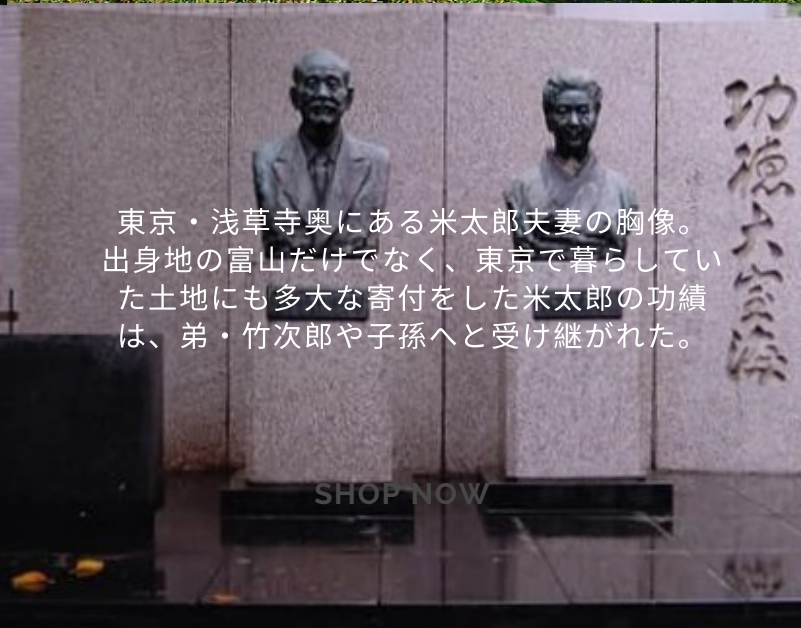


大谷博物館

昭和10年に米太郎により建て直された生家。「アズマダチ」という農家建築様式で当時の暮らしが再現されている。大谷家の経歴が展示された記念室も併設。

入館無料

富山県小矢部市水落35



地元の水落には、大谷家の先祖代々のお墓がある。米太郎の墓は東京に。

東京・浅草寺奥にある米太郎夫妻の胸像。出身地の富山だけでなく、東京で暮らしていた土地にも多大な寄付をした米太郎の功績は、弟・竹次郎や子孫へと受け継がれた。

相撲巡業中に会社見学 鉄鋼王、そしてホテル王へ

相撲巡業をしながら、米太郎はいろんな会社の見学をします。企業側は力士が見学に来るといって喜んで企業秘密を話し、米太郎は事業のやり方を自然に覚えていきます。指を骨折したことで、力士に見切りをつけた米太郎は、国技館のそばで四股名をつけた酒屋を開きます。子ども時代の酒屋での丁稚奉公の経験が生き、現金取引の成果もあって、その後の事業への**タネ銭**を稼ぐことに成功。会社見学で覚えた鉄鋼圧延用のロールを創る東京ロール製作所を起業。鉄鋼業の需要拡大を見込んでいた米太郎は、その後30種類もの溶接炉をつくり、特許を取得しました。

そんな彼も時代の波に襲われます。関東大震災、太平洋戦争と災害や戦争の被害にあい、工場も被災するという不幸に何度も見舞われます。しかし、すぐに跡地で商売をはじめるのが米太郎流。従業員を被災していない田舎にやり、そこで雑貨を買い付けさせて販売し、また利益を稼ぐ。酒屋も工場も大きく復活させ、特殊鉄鋼製造に着手して大谷重工業をつくり、鉄鋼王と呼ばれるように。日本の自立自営のために工業都市の創設にも関わり、播磨臨海埋立地にも尽力しました。そして、東京へのオリンピック招致が決まった日本。政府からの要望もあり、これまでやったことのないホテル事業へと乗り出すのです。

「タネがなくて、芽もでてくるまい。自分で苦労して作ったタネ銭もなく、親や他人の財産をあてにしている人間に、ろくな人間はいない。**タネ銭**をつくれ。」米太郎が作ったタネ銭は時を経て、育んだ地への恩として多額の寄付金(学校、市役所など)になりました。金への接し方は人へのそれとつながる。そんな彼の生きざまが、あらたな未来の芽につながるのです。

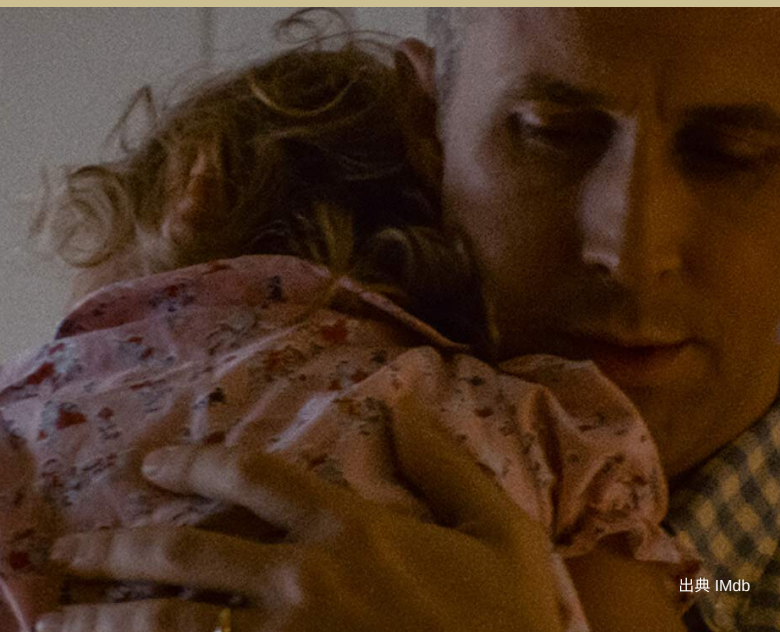
「ファーストマン」 月を墓に見た男

「ひとりの人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ」

月面着陸成功からちょうど50年後に公開された「ファーストマン」は、宇宙飛行士ニール・アームストロングと家族の物語が描かれています。世界の覇者を狙うアメリカケネディ大統領は、有人月面着陸成功のため「アポロ計画」を実施。その命がけの挑戦の裏には、家族との葛藤がありました。病弱だった娘を幼いときに亡くし、



出典 IMDb



出典 IMDb

喪失感を抱えたままのアームストロング夫妻。有人飛行というさらなる命の危険に向き合いながら、新しい時代をつかむためのミッションに挑みます。

アームストロングが月に降り立ってから、空白の10分間があったといわれています。映画ではそのとき娘の形見を月に置いてきたと描かれています。真相を知っているのは月だけ。人類が夢見た月は、映画では彼の娘の墓であるかのように描かれていました。

ひとりの男がその地に踏み出した一歩は、たったひとりの娘と再会するための一歩だったのかもしれませんが。

ひと息ブレイク 編集後記

まもりびとjournalをつくりながら、今年の、そして自分自身のキーワードを見つけました。「スポーツ」「継続力」です。スポーツについては、6年生の息子がスポ少でちょうど引退を迎えたこともあり、スポーツが見せる人間ドラマや感動をあらためて実感した一年でした。うちはチームスポーツですが、個人競技も同じく、スポーツほど多くの人が舞台をつくり、盛り上げるために尽力しているものはないことを、大河ドラマ「いだてん」からも再発見しました。そういう意味でも「いだてん」は偉大なドラマだったと思います。

「継続力」の大切さについては言うまでもありませんが、やり続けることのむずかしさと、それでもやり続けたいという意志との戦いが「継続力」の有無になるのではないのでしょうか。特集した大谷米太郎氏も、遅咲きの花を咲かせるまでには、たくさんの不本意な障害にあいました。タネ銭をつくる苦労、そしてその後の成功を永続させるための寄付。

お金の力を侮らなかった人だからこそ、その力でできることを継続し、その行為が子孫たちに受け継がれているように感じます。

継続力を生むモチベーションは周囲への「感謝」です。そして「スポーツ」も多くの人に「感謝」の心を育むものであります。わたしたちは何を受け継ぎ、何を繋いでいけるのか。感謝の心をつないでいきたいですね。

「おはかの手帖」 発売のお知らせ

読んで、綴って、つたえる。



おはかの手帖とは？

2019年のニュースといえば「おはかの手帖」を発売したことにつきます。

お墓という「もの」をとおして体験している「こと」とはなんだろう。

そんな問いから生まれたのが「おはかの手帖」です。

お墓を持っている人も持っていない人も同様に、わたしたちは「時間」を生きています。

お墓はその時間の尊さ、与えてくれる感動、失う切なさを存分に味わわせてくれます。

時間を生きる人間が紡ぐ物語を見つめるお墓。

あなたの物語、家族との何気ない日常を残せる「おはかの手帖」。

内容：『墓ありじいさん墓なしじいさん』収録

「お墓まいり記」「Thanks Messages」「お墓Q&A」「ファミリーマップ」など

“

おはかの手帖

read, write
and pass



おはかの手帖 プレゼント!!

「おはかの手帖」のPRムービーをつくるため、お墓にまつわるあなたと家族のエピソードを募集中! ご応募くださった方には「おはかの手帖」(1,500円税込)を一冊無料プレゼント!!

【応募方法】

メール、FAX、手紙、スナダ石材SNS宛てにご応募ください。ご住所、氏名、年齢、連絡先必須。